

第1日(2月15日)

開会あいさつ 尾縣 貢 専務理事

・いよいよオリンピックイヤー。オールジャパン態勢でオリンピックの盛り上げをお願いしたい。

事務連絡 羽田 雄一 幹事

・名札、短冊、配布資料の確認、冊子販売について
公認審判用ウェアについて

三宅 聡事務局員・青山商事株式会社 後藤 康文

・よろしくお願ひしたい。
・公認審判員ウェアの販売について、過去3年間、全国で1600名が購入。今回も年2回の販売の機会を設けた。1度目は4~5月、2回目は9~10月。

2020年度競技規則修正提案

片岡 裕介 委員

・IAAFからWAに組織名が11月1日に変更となった。ルールブックもルールの条文番号の体系が変更となった。

・警告と失格の対象を、個人に加えリレーのチームを対象とした。個人の警告数とリレーの警告数は累積しない。

・ナンバーカードについては、アスリートビブスまたはビブスと呼ぶこととしたい。

・スタートについて、スターターの裁量によってレベルに合わせて適切に運用されているため、国内規定を削除してもよいだろうという判断をした。

・直線競走について、逆走を認めることにした。

・リレーについて、解釈の変更。WAに問い合わせたところ、バトンパスが終わるまでは前走者、次走者が完全にバトンを保持したら受け手がバトンを拾う唯一のものとなるという見解。国内の解釈と異なるので、解釈を競技規則に合わせることにした。

【靴に関して】

・競技用の靴について、4ヶ月前に市販されたものが競技会で使用可能となる。

・競技用の靴底の厚みについて、3種類となる。今までの走幅跳と走高跳の13mm、スパイクありの30mmに加え、スパイクのない40mmとなる。

競技会実施報告(諸問題発生事例)

・日本選手権：福岡、IH：沖縄、全中：大阪、国体：茨城、U20/18：広島からの報告があった。

国際競技会・講習会報告

① WR(世界リレー) 関 隆史 幹事

・非常に短い準備期間でなんとか乗り切ったというのが実情。

② 世界陸上競技選手権大会

鈴木 一弘 委員長、関根 春幸 副委員長

・カタールドーハ、非常に暑かった中で行われた世

界陸上だったので、非常に問題もあった。

・TICを視察。非常に狭い部屋の中で、狭さを解消するために、器具の持ち込み検査はコールルームでやるなど分散して工夫していた。

③ アジアマラソン選手権 関根 春幸 副委員長

・片側4車線を全車線規制という中での実施がうらやましかった。また、100mごとに医科大学の学生が立っていて、何かあった場合対応するように準備されていた。

④ AAA(Area Level)スターターセミナー報告

関 隆史 幹事

・世界リレー前に2日間の日程で実施。アジア各地から7名【うち日本から3名(+オブザーバー3名)】が参加。国際スターターのアラン・ベル氏が講師。スターターが、全競技者の確認ができるようにすることが重要。また、英語力の向上が大切。

施設用器具委員会報告

高沼 正利 施設用器具副委員長

・普及、ウェルネス陸上の実現ため、4種ライト(4種L)を設置、100m逆走の取り扱い、障害物の対応、兼用サークルの表面仕上げ、300mHマーク、ブレイクラインマーカーの変更、道路競走路に関する注意など説明。

NTO研修状況報告

赤峰 俊彦 幹事

・2019年に女性限定、ロード、英会話ができる方のNTO試験を実施した。5月2,3日にパラ、5月5,6日にオリのテストイベントを国立競技場で実施予定。

SISを使用する競技会での注意点について

関 隆史 幹事

・オートリコールが鳴ったから、全てが不正スタートという訳ではない。現在、ほとんどのSIS装置は「変化量検出方式」となっている。波形図の見方、判定について、SISのサブモニターを手元に置く、事前テスト、スターティングブロックの運搬、など注意点の他、実際のレース動画と波形図を見比べながら8つの異なる事例を検証した。

抗議と上訴について

関根 春幸 副委員長

・国際ルールと国内ルールの違い、抗議の流れ、抗議を受け付ける場所、リザルトに発表時間の確認、抗議結果の伝達方法、上訴について、抗議の対応について等を説明。

鹿児島国体について

梶田 竜之助 事務局員

・資料をもとに説明。特に新種目についての出場資格と番組編成の原則について説明。

事務連絡

羽田 雄一 幹事

・明日の集合時間、場所の説明等。

第2日(2月16日)(分科会A)

① 公認競技会開催申請 鍋島 太一 委員

・2019年度の諸問題について、申請の変更点について、競技場の公認・検定に関する情報の送付、確認。公認競技会規程の確認。中止の際の報告等。

② 公認記録申請について 岩脇 充司 委員

・記録申請に必要な書類について、申請までの期日について等を説明。

陸上競技マガジン 高橋 克実氏

・申請についての具体的な問題点や2019年度の課題について説明。

③ 日本記録の申請について 岩脇 充司 委員

・日本記録の申請について、次年度は多くの日本新記録が予想されることから、改めて注意点について伝達をした。

④ ワールドランキング対応について

井上 博行 委員

・2020年度も都道府県選手権以上の大会ではワールドランキング対応をお願いしたい。(ローマ字氏名・生年)さらに有力選手が出場する大会でもぜひ対応をご検討いただきたい。また、申請の際の注意点について伝達。

⑤ 広告規程 協議 杉本 太郎 委員

・広告規程の修改正について、内容が二つに分けられた(①衣類及びアクセサリー、②Events)。大会規模によっても(①世界選手権、オリンピック、②地域選手権、③各国の選手権等)異なる。2020年度の運用・修改正の方針について。今年度は従来通りの規程で運用する。但し、GGP、マラソンのラベリングレースについては、国際規格も許容(ダブルスタンダード)することで運用をお願いする。

(分科会B)

① 公認審判員昇格審査結果 町田 紀子 幹事

・昇格候補者審査を2020年1月18日(土)に実施した。681名の申請者の内661名を昇格候補者とした。対象年齢を5歳引き下げたため昨年よりも人数が2.3倍となった。

・講習会、競技会回数の不足、陸連未登録のため不合格者が出た。

② JRWJセミナー報告 関根 春幸 副委員長

・不合格に対する問い合わせが多かった。11月実施の合格者は0であった。競歩審判員としての技術は高い。それ以外の競歩に関する競技規則もきちんと習熟して欲しいと考えている。

③ リレーに関する確認事項 青柳 智之 委員

・バトンパスの定義についての、ルールの特典化について説明。また、修改正の背景について説明。世界でメダルを狙うチームがある国として国際ルールと解釈が違っているかという部分でもこの時期での解釈の変更の理由の一つとなった。

・国内解釈の見直しについて、バトンパスが完了するまでは受け手は「保持者」ではない。

・リレーにおけるYCの扱いについて「リレーチーム」が追加された。様々な場面でのYCの扱い、その後の出場についての解釈について共通理解した。

④ オリンピックマニュアル・ハンドブック進捗状況 関 隆史 幹事

・オリンピックマニュアルは持ち運びができるように、A5サイズを予定している。マラソン・競歩については、別冊とする。

・ハンドブックにオリンピックマニュアルの一部掲載する予定、また、本文やコラムを一部変更。

⑤ JTOトラブル事例 赤峰 俊彦 幹事

・今年度トラック&フィールド27大会、ロード22大会に派遣。派遣の中での報告には、細かなトラブル、商標関連、不正スタート関連、抗議対応、ロード種目特有のトラブル、など多岐にわたっている。実際のトラブル事例について、対応を共通認識した。

⑥ C級審判員制度の導入 本橋 郁子 委員

・少子高齢化による審判員の減少、若い人材の確保を求める声が多いため、導入の方向で検討を進めている。陸上競技への関わり方の多様性(競技者・応援・手伝いだけでなく審判員としての関わりもある)を高校生に知ってもらいたい。基本的な枠組みは陸連で作成するが、加盟団体の裁量に委ねる部分も出てくると考えている。今後、条件整備・講習テキスト作成等を進めていく。

(全体会) 分科会報告

関根 春幸 副委員長・岩崎 義治 副委員長

・それぞれの分科会での決定事項、分科会の概要を発表。

オリンピック・パラリンピック準備状況

鈴木 一弘 委員長

・競技役員編成について、競技ボランティアについて、学生コラボレーターについて、テストイベントについて、輸送について、新国立競技場について、W-up会場について等説明。

全体質疑応答

Q(JTO:長谷川) ビブスのサイズの変更詳細。

A(関根) 新規規格は、縦16cm×横24cmが最大。事情に応じて適宜変更していただいで構わない。

事務連絡 町田 紀子 幹事

・問い合わせ先、冊子販売、昼食、名札回収等。

閉会あいさつ 鈴木 一弘 委員長

・WAがEPで工夫し、普及活動も盛んである。それに伴い、ルールの変更もある。誰が見てもはっきりわかるルールにしなければファンが逃げていくので、いろいろ情報共有をしていきたい。